

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 26 年度

事業所番号	2771100894		
法人名	社会医療法人 慈薫会		
事業所名	グループホーム大阪緑ヶ丘		
所在地	大阪府岸和田市神須屋町662番地の2		
自己評価作成日	平成 26年 4月 23日	評価結果市町村受理日	平成 26年 6月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tru&amp;JigyosyoCd=2771100894-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tru&amp;JigyosyoCd=2771100894-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 5月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然環境の中、利用者様は、思い思いの生活を自由に過ごされている。職員は明るく、利用者様と共に過ごし、家庭的な雰囲気、和んでいる。病院を母体とし、利用者様、家族様の希望に沿った医療が受けられ、安心を得られている。職員は利用者様の笑顔が自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

救急指定病院をはじめとして、地域に貢献している社会医療法人が平成13年に設立したグループホームです。ホームは、併設する介護老人保健施設の別館2階にあります。平成24年10月にユニットを増設し、2ユニット18名定員になりました。四季折々の花が咲き、自然豊かな景観に包まれた中に立地し、居室からは東西南北各方面に雄大な風景が広がっています。利用者は、ユニット間の行き来や職員との触れ合いを大切にしながらゆったり、自由に過ごしています。昨年より、市の委託を受け、認知症の方やその家族、地域住民が集う「認知症カフェ」をホームで毎月開催し、職員は相談を受けたりする等、地域と支えあう憩いの場ができました。管理者は日本認知症グループホーム協会の役員を務めており、職員や家族、地域住民に認知症介護についての理解を深める努力をしています。職員は「利用者の笑顔が一番」と感じ、毎日馴染みの表情を見て一人ひとりの個性を大事にしながら、サービス提供を行っています。今後もさらなるサービス向上を目標に取り組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・家族・地域の皆様・職員が連携して利用者の人格尊重した生活を築いて行くことを理念に掲げている。職員は利用者一人ひとりをよく知り尊重した生活支援に努めている。	開設時に定めた理念は、事業所の運営やサービス提供の拠り所として、大切にしています。理念は各ユニットの掲示板に掲示し、職員はもとより外部からの訪問者にも良くわかるようにしています。理念の内容を分かりやすく具体的に項目化した「事業推進目標」も同様に掲示し、共有しています。新職員には、オリエンテーションの適切な時期に必ず説明し、共有と実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入。町会便り、回覧板を届けていただき、利用者に配布している。また、地域の行事(祭り・盆踊り)に参加、暖かく迎えてくださり、地域との交流の場になっている。	町内会に加入しており、地域の行事予定等の情報を得ています。民生委員の協力で、昨年からだんじり祭りの見学や盆踊りに参加する等、地域との交流を図っています。市社会福祉協議会職員、家族等の紹介でボランティアが来訪し、各種コンサート、盆踊り、歌、書道等の催しを通して、利用者の楽しみと交流が得られています。昨年より、月1回認知症カフェを開催し、地域の方の参加があります。中学生の体験学習も受け入れており、利用者との交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催している。認知症介護されている家族の相談にのったり、認知症についてレクチャー開催、地域の方が参加されている。認知症についての相談窓口として、訪問受け入れ、アドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況報告とサービス内容報告している。民生委員様から、地域の催し物の案内を頂き参加している	運営推進会議は2カ月に1回、年間6回の定期的な開催があり、議事録も公開しています。事業所より、利用者の詳細な状況や行事等の活動内容を報告しています。参加者は、市職員、民生委員、元介護相談員と事業所職員が中心となっています。家族の参加については、便りで開催日を知らせる一方、家族から書面で募った意見を反映するよう努めています。今年5月の会議から、家族が参加をする予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に不明な所は直接電話、回答を頂いている。市主催の研修の場所として活用してもらっている。	市の介護保険、生活保護関係の担当者とは、いつでも相談できる関係にあります。事故が発生した際は、定められた様式で報告しています。事業所を市主催の研修場所に活用してもらうなど、協力関係を築く取り組みもしています。職員は、事業者連絡会の会合・研修会に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>安全で、自由な暮らしを実践している。家族にリスクを理解していただき、利用者の行動を止めるのではなく表情を観察しながらさりげなくサポートしている。</p>	<p>開設当初より、身体拘束をしないケアに取り組み、施錠をしない安全で自由な暮らしの実践を目指しています。職員は、拘束をしないケアの大切さを理解し、さりげないサポートをしながら自由な暮らしを支えています。家族にも事業所の方針を説明し、理解を得ることに努めています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>併設施設の虐待防止委員会に参加している。職員は虐待への防止を認識し、職員がストレスなく、体調無理せぬように勤務の配置に配慮し、代表者は職員の思いの観察に努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修の機会があれば参加したい。社協の後見人制度利用している利用者あり、金銭の管理をしていただき、月1回訪問時には、生活の様子を伝えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分に説明、ご理解を頂いた上、署名、捺印を頂いている。改定の際には新たに説明、捺印を頂いている。加算の対称になれば、個々に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者を施設内に明記、意見箱設置している。面会時、ご希望ご意見を伺ったり、ご意向確認書にてご意見を書いていただいている。頂いたご意見は職員間で話し合い、検討している。	重要事項説明書の冒頭に相談窓口や相談者名を明記しています。意見箱は、玄関入口に設置しています。運営推進会議や家族会からあがった意見や要望については、丁寧に対応し、運営に反映しています。また、介護計画作成時や面会時には、利用者の様子を伝え、家族からの意見や意向を聞く等しています。毎月発行の「おたより」は、利用者一人ひとりの笑顔の写真を載せて、普段の生活を楽しんでいる様子が分かるようになっています。「おたより」を送付することで、家族に行事や家族会、コンサート、運営推進会議等への参加をお知らせし、家族にも意見が出しやすい工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月主任会議を実施、行事計画、職員配置、業務改善等話し合っている。職場を離れ、就業後も集まる時もあり、チームワークが取れている。</p>	<p>管理者や統括責任者は、日常的に職員の声を聞くよう努めています。毎月の主任会議では、来月の目標、職員の状況等をリーダーより報告を受けて、職員のシフトや業務改善等を検討しています。ユニットリーダーは、会議にあたって全職員より意見や要望を聞いて会議に臨んでいます。夜勤者以外、全員で楽しい食事をしながら話し合いの機会が年数回あり、職員はコミュニケーションが良く、意見の出しやすい職場環境作りに努めています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の力量個性に応じ、やりがいを感じる様に業務分担を考えている。自信を持ち、向上心を培い、スキルUPに努めている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>参加可能な限り、外部研修を受けている。資格取得を勧め、そのために必要ならば勤務体制に配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症 GH 協会、大阪認知症高齢者 GH 協議会、岸和田市介護保険事業者連絡会に加入、ネットワークができています。GH 大会には毎年参加全国の GH との交流の機会になっています。岸和田市8か所間の相互研修へは、職員順番に参加、得てきた事を業務改善に生かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にグループホームで過ごせる時間を出来る限りつくり、職員との関係づくりをしている。情報を参考に本人を知ることに努め入所時には安心される関わりへ即実践出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込みを頂いた時から、家族様に様子を伺う電話をしたり、訪問を受け入れ、話をよく聞いている。入所されてからは状況を細やかに報告、要望に応じて対応、家族が安心されるように、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話し合い、必要に応じて検討している。スムーズに利用できるように協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす中で本人の出来る事に気づき、暮らしの中での役割をさせていただき共に生活を築いている。また、かわりの中で気付いたことを書きとめ、職員間で共有を図っている。家族様が書かれた暮らし情報シートも参考になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの状況を毎月おたよりにて家族に報告している。面会も多く、家族様の協力を頂き、家族と相談しながら支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前利用していた集いに定期的に参加、かわりのあった方の訪問や外出に協力している。	職員は、入居以前に利用していた美容院や喫茶店、カラオケ等に出かける等支援しています。また、入居以前に利用していたデイサービスや家族の会に参加することで、今まで大切にしてきた関係が途切れることがないよう、支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の場所を提供したり、職員が輪を取り持ったり、和める環境づくりをしている。利用者は2ユニットを自由に行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も本人様が来所される機会を作ったり、面会に行っている。家族からも電話あり、相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちシート作成。困難な場合は職員で意見を出し合い、その人にとって安心できる関わりに努めている。	職員は、その人の思いや気持ちが引き出せるよう、普段の会話を大切にしています。日常生活の中で気づいたことは、申し送りノートに記載しています。アセスメントシートには、利用者や家族の意向を記載しています。計画作成担当者は、「気づきシート」を活用することで、一人ひとりから気持ちを引き出すツールとしています。利用者との会話の中で「家族アルバムが見たい」という要望を聞き取り、家族がアルバムを持参して、職員もその利用者の生活の歩みを共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前情報や家族に暮らし情報シートを記入していただき、生活歴を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過、申し送りに記録し、職員皆が過ごし方を把握、ケアプラン実践表には、気づいたことを特記事項として記録、カンファレンス時参考に使っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンス、必要時は家族も参加、介護計画に導入している。	介護計画見直しにあたり、毎月カンファレンスを実施し、必要時には家族も参加しています。カンファレンスには、「暮らしを見て気づいたこと・ケアプラン表」をツールとして活用しています。この表は、介護計画が簡単に分かりやすく工夫されており、全職員に周知しやすくなっています。モニタリングは6カ月に1回、必要時に応じて随時行っています。利用者や家族に説明を行い、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン評価表にプラン実践状況を毎日記録、気づきも書きとめカンファレンス、モニタリングに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の思いを優先、地域や法人内との連携の下、必要な支援に取り組む姿勢である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協、認知症家族の会とのつながりなど一人ひとりに応じた関わりをを継続、安心されて過ごされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時確認同意の下、事業所の協力医や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時には、普段の様子を伝え、受診記録に返信頂いている。	利用者、家族の希望を尊重した対応をしています。ほとんどの利用者が同法人医療機関をかかりつけ医としていますが、入居前からかかりつけの医療機関を継続し、受診できるように支援しています。夜間や緊急時の体制も整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の観察に努め、体調変化があれば、看護師に連絡、速やかに必要な処置へ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した場合、病院に状態を聞き家族の希望優先、最善の方向を話し合っている。病院関係者とは常に連絡を取り、情報を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に説明、同意書に捺印を頂いている。</p> <p>重度化した場合、段階ごとに家族の意向確認、かかりつけ医と相談の下対応方針を決め、他職種皆で連携の下支援している。</p>	<p>入居時に、利用者や家族へ終末期の支援方針を説明しています。「重度化した場合における対応に関わる指針」を整備し、同意を得ています。しかし、状態が急変した場合は、その都度家族やかかりつけ医と連携し、方針を確認しながら対応しています。同法人医療機関の協力もあり、利用者や家族、職員の安心に繋がっています。5月より、利用者や家族の希望により、看取りに向けた支援が始まっています。看取り体制の説明、緊急連絡体制の確認、ケアプランカンファレンス等、家族に同意を得ています。</p>	<p>ホームでは、重度化による急変や事故発生の際、職員の対応力や知識をつける教育に力を入れており、毎月研修を行っています。今後の取り組みの成果が期待されます。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアル整備しているが、実践力をつけるための研修や勉強会をしたいと思っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災センターの協力を得て利用者と共に年2回避難訓練を実施している。災害対策への整備を整え、併施設との協力体制ができている。災害の発生に備えて物品を備蓄している。	災害対応マニュアル（地震、台風、火災）、緊急連絡体制等の整備をしています。消防署指導の基、防災センターの協力により、年2回消防訓練を実施しています。併施設との協力体制があり、夜間を想定した訓練も実施しています。非常時用の水や食料、災害用テントや備品は1階倉庫に備蓄しています。	災害用の水や食料等の備蓄については、現在更新している状況です。災害対策として、早期に備蓄を整えることが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の気持ちを大切にプライバシーに配慮しながら支援している。接遇アンケート実施、個々の振り返りの機会を作っている。	職員は利用者一人ひとりを尊重した言葉かけや態度で接しています。10カ条の「事業推進目標」の一番目にプライバシーの重要性を掲げています。管理者は、年2回「接遇アンケート」を実施し、職員一人ひとりの身だしなみやプライバシーを損ねない言葉遣い、利用者を個人として尊重したサービスを提供できているか等、振り返る機会を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に職員と過ごし、思いの把握に努めている。表情を観察、希望や訴えをくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ずつの生活スタイルを尊重、ペースに応じた関わり、見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要であればアドバイス、好みを褒めたり、季節に応じたおしゃれを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る場面を活かし、職員と共に食事作りをしている。家族的な雰囲気の中で、職員も共に食事をしている。	食事は、併設する老人保健施設の厨房で副菜が調理されて届けられます。ホームでは、ご飯を炊いたり、みそ汁を作り、盛り付けやトレーとお箸、お茶等の用意を職員と利用者が楽しみながら準備しています。利用者は、ボードに献立を書く、献立を読み上げる、テーブルを拭く、お手拭きタオルを温める、キッチンで職員と共に食材を刻むなど、それぞれの役割を担っています。調理の音や匂いがして家庭的な雰囲気の中で食事をしています。ホームでは、毎月利用者の希望を聞きながら、てんぷらや餃子、鍋料理等の昼食作りや季節の良い時期には外食に出かける等、食事を楽しむ企画を立てています。利用者と職員は、農園で採れた大根を切干大根にしています。できた切干大根は、食事の一品として提供し、利用者から好評を得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの好みや様子を把握、好みに合わせた食事提供、必要な支援をしながら、食事の喜びを感じていただく様に努めている。摂取量を観察し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケア実施している。声掛け、セッティング、自力を見守り、不足部分は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情をキャッチ、トイレ声掛け、動作の見守りをしている。ひとりひとりの排泄パターンを把握気持ちよく過ごされる様支援している。紙パンツ、パットの使用を検討、適した衣類を職員間で話し合い実践している。	職員は、利用者一人ひとりのパターンを活かしてトイレでの排泄を目指しています。利用者の気持ちに寄り添った支援を心がけており、排泄後や手洗いの確認をさりげなく観察し、対応しています。職員は、介助を好まない利用者の表情、動作等に五感を働かせ、無理強いせず、入浴やシャワー対応により清潔保持に努めています。入居時に、リハビリパンツで対応していた利用者が、職員の試行錯誤した結果、布パンツ対応になる等、自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況観察。水分摂取、散歩、パランスのとれた、規則的な生活の中で、便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向、希望の時間帯を尋ねている。返答できない方には、隔日の入浴体制実施している。拒否があれば、無理強いわなく、くつろいだ入浴実施へ配慮している。	隔日の入浴体制となっており、利用者の希望に応じて入浴しています。入浴を好まない方には臨機応変に対応しています。利用者が、下着等を脱がずに入浴する場合でも、無理強いせず、会話をしながら入浴してもらい、利用者自身で脱衣してもらうよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりのペースに応じて、入床介助、安眠に心がけている。リビングルームはどこでもくつろいでいただくようにソファを配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容ハファイルにあり、職員に周知している。体調の変化があれば、主治医に伝え、投薬検討して下さっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつの生活スタイルに応じ、役割にて自信を持っていただいたり、趣味活動や楽しみ事への協力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出したり、地域の行事に参加している。気候に合わせて、グループホーム全員での外出も毎月実施している。利用者は広い敷地内施設周囲を毎日散歩、気分転換になっている。	利用者は、法人の広い敷地の庭園や農園に職員と一緒に毎日散歩に出かけています。庭園には東屋があり、季節の花々が咲き誇り、利用者や職員の憩いの場となっています。近隣の農家の方とも交流があり、野菜や果物の収穫も利用者の楽しみになっています。毎月の行事として、お花見、公園、ミカン狩り、紅葉ドライブ等、多くの外出支援企画があります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、お金を所持されている。家族からの希望に応じて職員が管理している。その場合、毎月預かり金の収支報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙を頂いている。希望があれば、利用者から電話される時もある。毎年、年賀状をお一人ずつ書かれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは自由に過ごされ、好みの場所でくつろがれている。雑誌を見られたり、DVDで好みの番組を見られたり、歌を口ずさみながら歩かれたり、お一人ずつの過ごし方がある。	リビングは、大きな窓から採光が入り、明るく広々としています。各テーブルには一輪挿しの花が飾られています。壁には利用者の書いた書道作品、切り絵、俳句、外出、行事等の写真を掲示し、利用者、家族の団らんの場となっています。ソファコーナー、図書コーナー、テレビコーナー等では、利用者がそれぞれゆっくりと過ごしています。中央にあるキッチンからは、食事やお茶の準備する音が聞こえてくるなど、家庭的な雰囲気となっています。また、季節の良いころは、広いベランダで喫茶をするなど、鳥の声や季節の花を感じるよう取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士思い思いの場所で過ごされている。2ユニット間行き来され、ともに過ごされておられる。お一人で過ごされている方は、マイペースを見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごされていたように、家族様がレイアウトされ、家具を持ち込まれている。好みのグッズを飾ったりされ、利用者は自分の家だと話されている。	利用者は、居室に机や椅子、テレビ、マッサージ器、書棚、時計、位牌、クッション、家族アルバム等、馴染みの品を持参しています。家族との思い出の写真を飾ったり、祭りのグッズを飾ったりして、居心地の良い工夫をしています。各居室からは、緑豊かな自然を眺めることができる設えとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境整備に努め、能力に応じた生活リハビリを実施しながら、生き生きとした生活支援に努めている。		